

鶴岡市朝日庁舎建設基本計画（概要版）

～過疎対策における先導的な取り組みを推進する拠点施設へ～

R4.3.17 朝日地域振興懇談会 資料

令和4年3月

鶴岡市朝日庁舎

老朽化、耐震性、機能分散などの現朝日庁舎が抱える様々な課題を解消し、地域の皆様の安心・安全の確保と利便性の向上を図るため、庁舎建設について検討を行いました。

この基本計画（概要版）は現朝日庁舎及び朝日分署の現状と課題、早急な整備の必要性、基本理念、朝日庁舎の在り方、建築場所、新庁舎に求める機能と施設規模、事業費とスケジュールなどの事業全体の方針をまとめたものです。

今後は基本設計に向けて、導入機能の具体化、敷地条件及び建て替え条件などを踏まえたより精度の高い検討を行い、地域の皆様、市民の皆様の御意見を伺いながら、地域のシンボルとなる新朝日庁舎の建設をすすめてまいります。



朝日庁舎・分署の現状と課題、整備の必要性

●現在地



●現状

朝日庁舎

- 昭和45年に建設されて以降、**51年が経過**
- 耐震診断の結果、地震の衝撃に「**倒壊する危険性が高い**」
- **利便性が低下している**
⇒安全性や住民サービス・行政効率への**早急な対応が必要**



朝日分署

- 昭和49年に建設されて以降、**47年が経過**
- 耐震診断を実施し「**耐震性が不足している結果となった**」
- スペースが手狭で**衛生管理上の問題が多い**
⇒24時間体制に適し、安全面に配慮した**施設環境の整備が急務**



◀庁舎・分署共通▶

- 倒壊の危険性があり、災害時の防災拠点にならないおそれがある。
- 両者が離れて位置し、災害発生時に情報共有化し迅速対応ができないおそれがある。

◀庁舎▶

- 少子高齢化・過疎問題及びニーズの多様化等の地域課題に直面し、過疎対策・地域公共交通・中山間振興の司令塔としての機能が庁舎に求められている。
- 庁舎周辺を含めた一体的な機能集約により、コスト削減と住民サービス向上が必要。

◀分署▶

- 分署を単独とした場合、現地への建設はスペースがないため、新たな建設場所の確保及び建設費用や維持管理費用がかかる。

庁舎と分署は、早急に何らかの手を打たなければならない時期にきています。

庁舎整備の理念とこれからの庁舎の在り方

●庁舎整備の理念とあり方

現在の庁舎は、老朽化による耐震性の不足による改築の必要性に加え、庁舎周辺に点在している老朽化が進む公共施設を機能集約することにより、将来に渡ってのコストを縮減するとともに、ワンストップサービスの拡充による住民サービスの向上を図っていく必要があります。

また、庁舎に求められている機能や役割、地域住民のニーズも変化しており、市民と行政が協働して地域課題に取り組むことが求められます。

そのため、庁舎整備の基本理念として『地震や風水害等の自然災害や火災時における地域防災の拠点』を掲げ地域住民の安全安心を確保し、『中山間地域の暮らしを守り、支える取り組みを推進する拠点』を掲げて森林資源などの地域資源の積極的な活用や、市全体のデジタル推進・地域振興部門等の機能を併せ持つ庁舎を目指します。

また、急速に普及している情報通信技術を活用した取り組みを推進し、『住民サービスや福祉の向上・地域の活性化、特に対話による連携・協働を推進する拠点』づくりも目指していきます。

こうしたことから、新庁舎建設の指針を『鶴岡市の過疎対策における先導的な取り組みを推進する拠点施設』として、次図に示す基本方針に基づき整備していきます。

- ・耐震性を確保した地域防災の拠点
- ・庁舎周辺の施設を「公共施設ゾーン」として整備
- ・周辺施設の機能集約によるコスト縮減

- ・森林資源などの地域資源の活用
- ・木質バイオマス（チップボイラー）等の再生可能資源の活用
- ・市全体のデジタル推進・地域振興部門等の機能
- ・ペーパーレス化、フリーアドレス化に向けた施設整備

《新庁舎建設の指針》

鶴岡市の過疎対策における 先導的な取り組みを推進する 拠点施設 の実現

- ・情報通信技術を活用した新しいサービスの構築
- ・デジタルで地域の拠点を空間接続し、住民サービスの拡充
- ・デジタルを活用した過疎対策モデル地区
- ・ワンストップサービス拡大
- ・対話による市民協働・交流拠点の整備

建築場所

●建築場所

現朝日庁舎は朝日地域の中心的な場所にあり、周辺には多くの公共施設などが存在していることから、市民が最も集い易くなっています。

このため、一層の市民へのサービス向上を図りながら周辺施設を含めた機能を強化することが求められています。

このため、上記のことを踏まえつつ、財政負担や利便性の影響などを次の観点から比較・評価しました。



※現在の朝日庁舎と周辺施設

《比較・評価の条件》

- ① 朝日庁舎、朝日分署の機能を集約できるだけの**まとまった敷地**があること。
- ② 公共交通機関のアクセスに優れているなど**交通事情が良好**であること。
- ③ **他の公共施設などとの連携**が図りやすい場所であること。
- ④ 防災拠点の形成につながり、**地域の中核機能向上**が図れる場所であること。
- ⑤ まちづくりの拠点として、**市民が集いやすい**場所であること。
- ⑥ **市が土地を所有**していること。
- ⑦ **新たな用地買収や権利の調整の必要がなく**、早期の事業着手が可能な場所であること。

比較検討を行った結果、**新たな用地買収や権利の調整が不要で、コストがかからなく、かつ「これからの庁舎の在り方（前述）」を実現できるかという観点から総合的に判断し、現朝日庁舎敷地内とします。**

●配置図



(配置図は参考イメージです。)

新庁舎に求める機能と施設規模

●新庁舎に求められる機能

基本理念・基本方針の実現に向けて、新庁舎への導入が望ましい主な機能は次のとおりです。

○多目的スペースの整備

庁舎1階に多目的スペースを整備し、窓口ロビー・市民スペース・コワーキングスペース・バス待合場所（市営バスと民間交通バス乗り継ぎ場所など）として活用する。会議・打ち合わせなどの個別ブースは可動式間仕切り等で柔軟に活用できるスペースとして確保する。

○バリアフリー化

建物内は基本的に全てバリアフリーとし、足腰の弱いお年寄りなど足の不自由な方のためのスロープ、玄関自動ドア・多目的トイレ、車いす利用者に配慮したエレベーター等を整備する。

○木質バイオマス（チップボイラー）の導入

再生可能資源の積極的な活用を目的として、木質バイオマス(チップボイラー)を導入する。庁舎と別棟で整備し、木質バイオマス棟から供給を受ける温水を冬期の補助暖房として利用する。

○防災拠点施設

日常の防災対策のほか、大規模災害時には災害対策支部として拠点施設となるため、構造的な強度や必要な設備機能を確保する。また、防災無線室と大会議室を兼ねる防災対策本部を整備し、大地震動後においても無線設備、照明設備、空調設備等が機能するよう計画する。

●施設規模

《延床面積》

■庁舎棟（W造+RC造）

総務省と国土交通省の基準を参考として約1,400㎡を庁舎棟の延床面積とします。

■分署棟（RC造）

分署棟は消防署羽黒分署等の実績を基に同規模で計画して410㎡とします。

■木質バイオマス棟（S造）

約200㎡を木質バイオマス棟の面積とします。

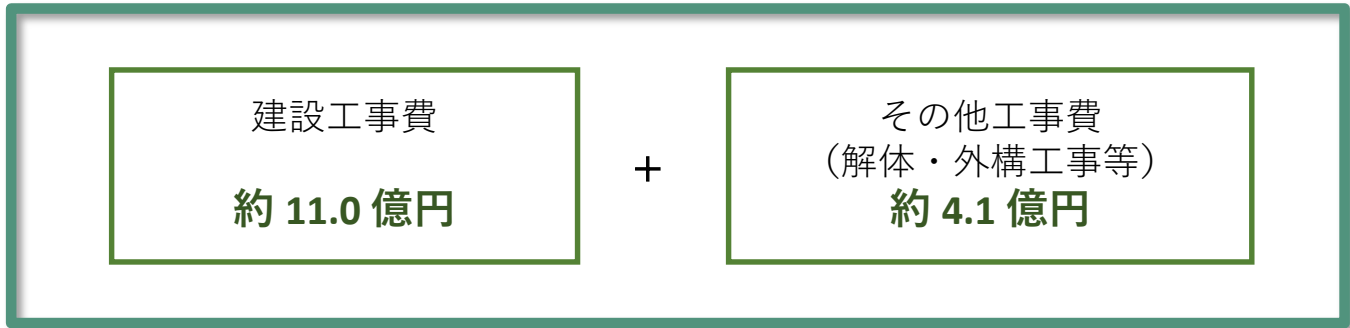
以上から、**延床面積は庁舎棟1,400㎡、分署棟410㎡、木質バイオマス棟200㎡、
合計 2,010㎡とします。**

事業費とスケジュール

●概算事業費

合計 約 15.1 億円

標準的な庁舎の整備を想定し、事業費を試算しました。



●スケジュール

令和3～4年度に基本設計・実施設計を行い、約1年半の工事期間を見込み令和6年度の完成を目指します。

現在の朝日庁舎、朝日分署は供用開始後の令和6～7年度に解体の予定です。

□■□■□お問い合わせ□■□■□

鶴岡市朝日庁舎 総務企画課

電話 0235-53-2112

FAX 0235-53-2119

E-Mail as-somu@city.tsuruoka.yamagata.jp